

## 論文要旨

**目的：**近年、ハイリスク妊産婦が増加し、ケアの担い手である助産師に求められる専門性が高まっている。本研究の目的は、臨床で教育にかかわる実地指導者が、分娩期の産婦を受け持つ新人助産師に対して、臨床判断モデル（Tanner, 2006）の中の気づき（Noticing）をどのように促し、解釈（Interpreting）の統合を促進するのかについて、実地指導者の視点から明らかにすることである。

**方法：**本研究は参加観察法、半構成的面接法を用いた質的記述的研究である。都内3か所の病院の指導者、新人助産師8組に対して、指導者が新人助産師に教育を行った場面に絞り、参加観察を行った後、それぞれ個別に半構成的面接法を用いてインタビューを行った。分析は、参加観察から得られた教育の場面状況と参加観察後のインタビューを統合して分析した。本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会承認を得て行った（No. 17-A034）。

**結果：**分析の結果、7つの気づき、解釈を促進する教育場면을抽出した。抽出された場面テーマは【場の空気に吞まれないよう声をかける】、【発見しづらい変化を教える】、【産婦の変化を見逃さないためにそばに居よう促す】、【潜在しているリスクを関連づけて捉えられるようにする】、【その場と人を活用してハイリスクの見方を教える】、【手の感覚で感じ取れるようにする】、【自分の触診の不確かさに気づくことができるよう助ける】であった。指導者は、気づきや解釈の統合を促進する教育的かわりをする前段階として【場の空気に吞まれないよう声をかける】ことで、『学ぶ環境を整える』ことや、【発見しづらい変化を教える】、【その場と人を活用してハイリスクの見方を教える】、【自分の触診の不確かさに気づくよう助ける】ために、『教えるタイミングや新人助産師の個別性を見極め、教える』ことをしていた。そして、【発見しづらい変化を教える】、【産婦の変化を見逃さないためにそばに居よう促す】、【手の感覚で感じ取れるようにする】、【自分の触診方法の不確かさに気づくことができるようにする】ために、その場で視覚、聴覚、触覚などの『五感で感じ取ることを促す』ことや、【潜在している全てのリスクを関連づけて捉えられるようにする】、【その場と人を活用してハイリスクの見方を教える】ために、質問し『新人助産師自身に思考することを促す』ことで、解釈の統合を促進しようとしていた。

**結論：**指導者は、学ぶ環境の整備、教えるタイミングや新人の個別性を見極め、五感で感じ取ることや新人助産師に思考することを促すことで新人の気づきと解釈を促進する教育を行っていた。